

プロフィール（青い部分を削除すると、短くなります）

清水 哲郎（しみず てつろう）

東京大学大学院人文社会系研究科 死生学・応用倫理センター
上廣(うえひろ)死生学・応用倫理講座 特任教授

1947 年生まれ。東京大学理学部天文学科卒業(1969)後、哲学を志し東京都立大学、同大学院に進む。都立大学助手(1977)、北海道大学講師(1980)、助教授(1982)、東北大学助教授(1993)、教授(1996)を経て、2007 年度より現職。文学博士。

日本医学哲学・倫理学会会長（2008 年～2012 年）、第 15 回日本臨床死生学会大会長(2009 年)をはじめ、日本生命倫理学会、緩和医療学会、日本哲学会、日本倫理学会、中世哲学会で、理事等を歴任。

専門分野は元々は、中世哲学(特に言語と論理の哲学)・キリスト教思想史であった。著書に、『オッカムの言語哲学』（勁草書房）、『パウロの言語哲学』（岩波書店）、『世界を語るということ―「言葉と物」の系譜学』（双書 哲学塾 岩波書店）等。

加えて、80 年代後半から、医療の専門家と対話しつつ進める〈医療現場に臨む哲学〉を試み、現在は臨床倫理学と臨床死生学の交差する領域で実践的研究を進め、また、医療から介護へとフィールドを広げつつある。著書に『医療現場に臨む哲学』、『医療現場に臨む哲学 2 ことばに与(あずかる)私たち』（勁草書房）。『高齢社会を生きる―老いる人／看取るシステム』（編著 東信堂）、『生命と環境の倫理』（編著 放送大学教育振興会）、『ケア従事者のための死生学』（島菌と共編著、ヌーベルヒロカワ）、『臨床倫理ベーシックレッスン』（石垣と共著、看護協会出版会）、『最期まで自分らしく生きるために』（NHK 出版 放送テキスト）など。

最近では、日本老年医学会がこの 6 月に公認した、高齢者の人工的水分・栄養補給の導入をめぐる意思決定プロセスガイドラインの原案とりまとめを担当。本人・家族のためのプロセスノートを並行して作成している。

ホームページ URL : <http://www.l.u-tokyo.ac.jp/~shimizu/index.html>

主宰する臨床倫理プロジェクト

<http://www.l.u-tokyo.ac.jp/dls/cleth/index-j.html>